

第2回 農協事業における農業支援サービス等のあり方検討会
(議事要旨)

日時：令和8年2月13日(金) 10:00~12:00

場所：農林水産省経営局第2会議室

出席者：尾高委員、坂本委員、島田委員、藤間委員、(日比委員は欠席)

議題：

1. 開会
2. ヒアリング
 - ① (株) ジェイエイフーズみやざき
 - ② (株) JA 常陸アグリサポート
 - ③ (株) 土佐くろしお村 村営みのり
 - ④ (株) NTT e-Drone technology
3. 意見交換 (④関係終了後、①~③関係)
5. 閉会

議事要旨：

ヒアリング後、意見交換を実施。委員からの主なコメントは、下記のとおり。

(○：委員 →：ヒアリング対応者)

《NTT e-Drone technologyからのヒアリングに関する意見交換》

- 農家から農作業を受託する時の流れは、どのようなものか。
- 生産者個人から依頼される場合や、市町村・JAなどから依頼される場合など、さまざまルートがある。依頼を受けた場合は自社から料金を提示するが、その金額を確認した上で実際に委託される場合と価格面を理由に委託に繋がらない場合がある。

《JA子会社からのヒアリングに関する意見交換》

- ジェイエイフーズみやざきの事業について、ほうれん草の栽培収穫に使用する機械は特殊なもので調達が困難だと思われるが、事業を立ち上げたときから使用し続けているのか、途中で更新したのか。
- 補助事業を利用し、15年前の事業立ち上げ時に2台導入。7年前に追加2台導入し、古い方の機械はサブ機として使用。ほうれん草の栽培収穫に使用する機械は、ほうれん草専用ではなく、茶を収穫する機械をベースにしたものである。(ジェイエイフーズみやざき)
- 土佐くろしお村 村営みのりの事業について、JA子会社による農業支援サービス

は、元々所有しているインフラを活用できる点で有利だと感じている。その一方で、農地の白紙委任を受けなければならないとの話があった。条件不利地域については、作業を断る際の判断はどのように行っているのか。

- 白紙委任等を1年受託し、水管理や鳥獣害の状況を確認したうえで判断する。基盤整備が十分に行われていない農地を委任されることが多いので、そのような対応をとるようにしている。(土佐くろしお村 村営みのり)

- 経営状況の改善のため、長期的にコンサルを利用しているようだが、経営状況の改善には有効と認識しているのか。
- 有効と認識している。(土佐くろしお村 村営みのり)

- 受託費用について、生産者としてはなるべく安くしてほしいが、受託業者としては高い値段で取引しなければ作業コストとの均衡が取れないという難しさがあると思う。どのようにやり取りを行っているのか。また、生産者側は「地域農業の持続性維持」という認識を有しているのか。農作業受託サービス事業の経営状況が厳しい中で、事業を取りやめると離農してしまう農業者もいると思われる。これらの課題について3社それぞれに伺いたい。
- 生産者を集めて話す際に、作業コストについてはお話しする。すべての作業コストを価格転嫁するのは難しいので、一部は自社の企業努力で対応すると伝えている。収支が合わないからと言って価格を上げると取引先がいなくなり耕作放棄が進むという悪循環になるので、そうならないよう配慮している。(ジェイエイフーズみやざき)
- 燃料費・資材費の高騰に直面している。また、大規模農家で受託・委託の両方を行っているところから「JAが値上げしないからこちらも値上げできない。今年は値上げするのか」といった意見を受けている。JAの理事の了解を得たうえで、持続可能な農業になるように、周りの人々の意見を聞きつつ料金の着地点を見つけてきた。今の価格が適正なものかどうかはわからないが、そのような手続きで進めている。(JA常陸アグリサポート)
- 割に合うように価格を上げると農家が依頼しづらくなって耕作放棄地が増え、地域に迷惑をかけたり、施設園芸経営に影響が出る可能性があるので、それを加味して価格を設定するようにしている。国・県・市町村としても、機械更新のための支援事業を実施していただきたい。(土佐くろしお村 村営みのり)

- 3社とも、経営状況が厳しいというお話だった。また、ジェイエイフーズみやざきに関しては、自社農場の運営を原料課社員が担っているという点が新しいと感じた。また、3社とも、農作業の受託から農業経営にシフトしているが、農作業受託を優先して自社農場運営の優先度を下げるといった話もあり、運営には苦悩されている状況を把握できた。土佐くろしお村 村営みのりについては、白紙委任圃場で飼

料米を栽培しているとのことで、中山間農地の問題として地権者の行方不明という問題があると思うが、そのせいで土地集積が進まず効率的な経営ができないことがあるのではないかと感じたが、実際にはどうなのか。

→ 農家の子供が地域外に居住する等で地権者が不在となり、農業経営ができないことがある。地域の農地のことを考えている人だと、農作業を委託したい旨を自社にご連絡いただく場合がある。一番の問題は耕作放棄地や土地改良が進んでいない地域であり、地権者がいないことが原因で土地集積が進んでいない。地域内のオペレーターを増やしつつ、地域内でどのように対処するか考えながら進めている。(土佐くろしお村 村営みのり)

○ 自社農場運営より農作業受託を優先するといった話がある一方で、地権者から農地を受託して農業経営を行う場合、複数の作物を栽培することで、自らの判断で作期の分散や経営の安定化を図れるというプラスの面もあると思うが、複数の作物を栽培されている常陸アグリサポートからお話を伺いたい。

→ 有機農業のために整備した農地については、最初から全面で野菜栽培を行うことが難しかったので、麦・そばや飼料用のデントコーンの栽培を組み合わせ急場をしのいだ。現在は行政のサポートがあるため良い状態だが、基盤の整備が不十分で水管理をおろそかにできないことがあるので、取水・排水が整備されれば他の作業にコストを割ける。また、管内は中山間地域が多いので、受託できる作業・受託できない作業を分けて、ものによってはお断りしている。また、借りられる地域・借りられない地域の采配もしている。(JA 常陸アグリサポート)

○ JA 常陸アグリサポートの事業について、JA の合併にスピンオフする形で農業支援サービスを行う理想的なものと認識している。JA が所有していた施設を引き受けて広域を管理している中で、効率化や遊休農地の有効活用などといったメリットがあれば教えていただきたい。

→ ライスセンターは管内の広い範囲に分布していて、地域によって能率に差異があるため、処理量にも違いが生じる。このため、時期によっては、一部の施設の稼働を止めることで、横持ちが発生しても、トータルでは人件費等のコストを削減できる。(JA 常陸アグリサポート)

○ 受託できる農作業・受託できない農作業の基準を設定することや、それを農家に納得してもらうことは簡単ではないと思うが、どのように基準を設定し、農家に説明しているのか。

→ 山間部の基盤整備をしていない水田では泥が深く田植機が沈み動かなくなることがあったり、軽トラックがかろうじて通れるくらいの農道しかない地区だと大きな機械が入れずオペレーターが作業できないことがあるので、田植え作業は地域を限定して行う。そのような場合は、作業を断る際、現地の担い手をお願いするよう

促している。(JA 常陸アグリサポート)

- 農林水産省に期待する支援事業があれば伺いたい。
- 作業受託の負担軽減・効率化をしたいと考えている。支援事業を活用する要件として事業拡大があるが、経営規模の維持を含め、機械の更新にも使いやすい支援があるとよい。(ジェイエイフーズみやざき)
- 機械更新のための事業に期待している。同機種 of 機械に買い替えたいと考えているが、1つ上のグレードの機種でないと補助事業の対象にならない場合がある。(JA 常陸アグリサポート)
- 機械更新についての事業を中心的にお願いしたい。また、事業の立ち上げはハードルが高いので、ハードルを下げるような支援が必要。県としては機械更新についてのサポートを実施すると聞いているが、国からもサポートをお願いしたい。(土佐くろしお村 村営みのり)

以上